



みなみっ子

学校教育目標

自立

協働

創造

令和8年10月13日(火)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

75号

語彙力の課題について

地域的な背景として、沖縄では琉球諸語(方言)の文法やニュアンスが共通語に混ざり合う「沖縄大和口(ウチナーヤマトグチ)」が日常的に使われています。そのため、単語に多くの意味を込めたり、感情や文脈を共有することで短い言葉でも会話が成立したりする温かいコミュニケーション文化があります。その反面、「文脈に頼らず、具体的・論理的に言葉を選んで伝える(概念的な共通語の語彙)」という場面で、子どもたちが言葉につかえてしまう課題を感じられる場面が多いのかもしれません。子どもたちの語彙力を高めるために、特別な教材がなくても日々の暮らしの中で実践できる具体的な工夫を紹介します。語彙力は単に「知っている単語の数」を増やすだけでなく、「自分の感情や考えにぴったりの言葉を選び取る力」に直結します。

1 会話の「言い換え」と「言葉の具体化」

家庭内でのなげないやり取りを少し変えるだけで、自然と新しい言葉に触れます。

①感情や表現を一段階深める

子どもが「楽しかった」「ヤバかった」「ウザかった」などの一言で片付けたとき、それを否定せず受け止めた上で、「ワクワクした感じ?」「どういう風にドキドキした?」と問いかけてみます。

②大人の語彙をそのまま使う

小さな子に対しても過度に「子ども言葉」ばかりにせず、「今日はとても賑やかだね」「それは工夫したね」など、少し背伸びした言葉を日常の会話に混ぜて使い、文脈から意味を推測させます。

2 絵本・児童書の「共読」と対話

ただ本を読ませるだけでなく、やり取りを通じて言葉のイメージを広げます。

①読み聞かせのあとの雑談

「あらすじの確認」ではなく、「主人公がこう言ったとき、どんな気持ちだったと思う?」「もし〇〇ちゃんだったらどうする?」といった、決まった答えのない対話を楽しみます。

②わからない言葉を一緒に面白がる

知らない言葉が出てきたら「スルー」せず、「これどういう意味かな?」「こんな意味じゃない?」と一緒に想像してから辞書で調べると、記憶に定着しやすくなります。

3 「実体験」と「言葉」を結びつける

言葉は、実際の五感(見る・聞く・触れる・味わうなど)の体験とセットになることで、生きた知識になります。

①五感を使った言葉の表現

料理や公園での遊戯中、「ツルツルしてるね」「サクサクした音だね」「少し苦みがあるね」など、状態や食感を具体的に言語化して伝えます。

②体験のあとで「思い出し」をする

外出やイベントのあとに「何が一番印象に残った?」「どんなところが驚いた?」と振り返る時間を作ると、自分の体験を思い出しながら整理して言葉にする練習になります。

4 否定せずに「言葉の整理」を助ける

子どもが自分の感情をうまく表現できずに泣いたり怒ったりしているときの関わり方です。

気持ちの代弁(ラベリング)

「〇〇したかったのにできなくて、悔しかったんだね」「急に言われてビックリしちゃったのかな」と、子どもが抱えているモヤモヤした感情に言葉のラベルを貼ってあげることで、自分の状態を客観的に捉える言葉を学びます。

日常の暮らしで育てる! 子どもの語彙力アップ術



語彙力は、自分の感情や考えにぴったりの言葉を選び取る力。日常の関わりで自然と伸びる!



「楽しかった」などを受け止めた上で、「どうドキドキした?」と問いかけて具体化します。



過度に子ども言葉にせず、文脈から意味を推測させる会話を意識します。



言葉にできないモヤモヤを言語化し、自分の状態を客観的に捉えさせます。



食感や状態を具現化して伝え、体験後に「何が印象的だった?」と対話します。



あらすじ確認ではなく、「登場人物はどんな気持ちだったかな?」と問いかけます。



知らない言葉をスルーせず、一緒に意味を予想してから辞書で調べます。